平成 25 年 2 月 27 日

平成 24 年度国立大学図書館協会海外派遣事業参加報告書

東京外国語大学附属図書館
古橋　英枝

このたび，平成 24 年度国立大学図書館協会海外派遣事業により，米国の図書館を調査訪問し調査を行ったことを以下に報告する。なお，本調査研究は，一橋大学附属図書館の菅原光氏と共同で行った。

1.　調査テーマ

電子環境下における北米大学図書館職員の新たな役割に関する調査研究
～Embedded Librarian の実態調査

2.　訪問期間

平成 24 年 10 月 28 日(日)～11 月 4 日(日)

3.　訪問先 / 担当者

① Arizona University / Ms. Jennifer Martin
Mr. Gary Freiburger
Ms. Ahlam Saleh
Ms. Annabelle Nunez

② Purdue University / Ms. Maribeth Slebodnik
Ms. Jane Kinkus Yatcilla

③ University of Michigan / Ms. Natsuko Nicholls
Mr. Scott Dennis
Mr. Philip Hallman
Ms. Annette Haines

4.　調査研究内容

米国の大学図書館では，従来主題専門司書の「subject specialist」や連携サービスを主眼とする「liaison librarians」が存在してきた。しかし，近年注目されているのはサービスの場を図書館から図書館外へと移して活動している Embedded Librarian と呼ばれる図書館員である。

そこで本調査研究では，（1）これまでの大学図書館職員による学習・研究活動への人的支援について整理し，（2）エンベディッド・ライブラリーサービスを実施している北米の

大学図書館の活動を訪問調査する。(3) これらの知見をまとめた上で，日本における同様の活動の可能性を検討する。本訪問はこのうちの (2) にあたるものである。

5.　調査研究成果

各大学において、Embedded Librarian の導入背景・現在の勤務状況・研修／評価制度の有無と課題／展望について伺った。

アリゾナ大学では, Health Science Library において資料の電子化による図書館離れが進んだことがきっかけで，導入を検討した。しかし、2006 年に研究棟（Research Building）に図書館職員を配置した結果，受け入れられず、撤退することとなった。2007 年に再度図書館員会において Embedded Service について提案したところ、学生ラウンジ内にデスクの設置が認められ、1 日の数時間をそこでのサービスにあてた。また、これを見た教員からもサービスの拡充要請があり、現在は教員フロアにスペースが提供され、ほぼ 1 日中そこで業務を行っている。Embedded Librarian に特化した研修・評価制度は特になく，Librarian 同士のコミュニケーションによる事例の相互共有で代えている。